

鳥羽市総合教育会議 会議録（要旨）

会議の名称	令和5年度第1回鳥羽市総合教育会議
開催日時	令和6年3月22日（金）14：55～16：05
開催場所	鳥羽市役所本庁舎 市長室
議題	<p>2. 議題</p> <p>（1）学校におけるいじめ・不登校の実態について</p> <p>（2）支援の必要な児童・生徒の対応について（多様な学びの環境づくり）</p> <p>（3）通学路の安全確保について</p> <p>（4）学校施設（廃校）の活用方針について</p> <p>3. その他</p>
会議資料	<p>資料1：いじめ問題に係る鳥羽市の状況（R5年度）</p> <p>資料2：不登校児童生徒数・HARP 通級児童生徒数（R5年度）</p> <p>資料3：個別の支援を必要とする児童生徒（R5年度）</p> <p>資料4：令和4年度鳥羽市就学指導委員会活動報告</p> <p>資料5：なごみ教室チラシ</p> <p>資料6：通学路の安全確保について</p> <p>資料7：学校施設（廃校）の活用方針について</p>
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	0人
出席委員	市長 中村欣一郎、教育長 小竹篤、 教育委員：奥村楠治、中村和久
欠席委員	浅尾美沙、中島幸代
事務局	<p>[鳥羽市教育委員会] 岡本総務課長、山下学校教育課長、奥村生涯学習課長、 山田課長補佐、天田係長</p> <p>[鳥羽市総務課] 濱口課長、山本課長補佐</p>
<p>1. あいさつ（市長）</p> <p>2. 議題</p> <p>（1）学校におけるいじめ・不登校の実態について （教育委員会 学校教育課長より説明）</p> <p>○教育委員 ながおか教室へ通級する子どもたちのケースについては、原因が不明だと聞いている。</p> <p>○市長 学校に戻るきっかけはどのような場合なのか。</p> <p>○学校教育課長 学校生活に疲れ HARP に通い始めたが、HARP で過ごす内にこのままではいけないと切り替えて学校へ戻る子どももいるし、受験を控え学校に戻らなければと思い3年生になってから戻る子どももいる。</p> <p>○市長 校内教育支援センターの実証事業を行う市町はどこか。</p> <p>○学校教育課長 県内10市町で実施されると聞いている。仮に鳥羽市で実証することとなれば鳥羽東中学校に設置することが想定される。</p> <p>○市長 登校ができない児童生徒の学校に設置するという事は、本来の目的とは矛盾しているのではないか。</p>	

○教育長

今は多様な学びという考え方があり、これまでは1つの教室で一斉に授業をすることが定番であったが、今はその状況から脱却し様々な居場所をつくっていかなければならない。

○教育委員

いじめや不登校が増加傾向にあり、特に中学生になったときに顕著であるとのことであった。いくつかの要因はあると思うが、スマホの普及もそのひとつではないかと考えている。中学校や高校進学を機にスマホを持たず傾向にあるが、社会的にスマホを与えなくてもいいようなまちづくりや、いじめや不登校を未然に防ぐ全体的な街としての対策が考えられないか。

○市長

おっしゃるようにスマホも原因のひとつであると思うが、良い面もあり今更止めることは現実的ではないと思う。スマホの使用を止めるよりも、スマホ以外に集中できることを考えていく必要があるのではないか。

○教育委員

スポーツなど夢中になれることはいっぱいあると思う。学校や教育委員会も努力されているが、何か解決策があればと思う。

○学校教育課長

これまで、いじめ問題等については目に見えるものであったが、今は何も起こっていないように見え、実はネットの中でトラブルに巻き込まれていたり、人間関係を崩してしまったりしている場合がある。

○教育長

スマホが出始めてきたころは、市P連、校長会及び教育委員会の三者でスマホを持たさない方向であったが、普及してからはルールを守らせることに重きを置くこととなった。

○市長

スマホを利用した「いじめ」の形態も想定されるので対応が難しくなっていると思う。

○教育委員

いじめは重篤なものになった時に生死に関わることもあるので、不登校も含めて常に見守っていないといけない。

(2) 支援の必要な児童・生徒の対応について (多様な学びの環境づくり)

(教育委員会 学校教育課長より説明)

○教育委員

支援を必要とする子どもが増えているが、支援員数も増えているのか。

○学校教育課長

特別支援学級に在籍する児童生徒が増えると、配属される教員も増えるので支援員が増えるということではない。

○市長

支援員となるには、特別な資格が必要なのか。

○学校教育課長

特別支援の免許を持った教員が望ましいが、今は特別支援教育の研修も多くあり、また、子育て支援室などとのつながりも多くなってきているので、情報やノウハウを蓄積できているので、特に資格が必須ということではない。

○教育委員

支援員などのスタッフが不足する場合は、その配置に必要な予算を確保していただきたい。

○教育長

保育所や幼稚園に通う幼児の場合は1対1の支援が求められる場合があり、幼稚園は来年対応してもらっている。小学校や中学校の児童生徒においても支援が必要な場合には配置を推進していきたい。

○教育委員

教育現場だけでなく保育現場からも人手が足りないという声も聞く。教育委員会の事務局も大変そうである。人手が足りず仕事が疎かになれば子どもに影響することになるので改善をお願いしたい。

○市長

これまでは市職員が多すぎると言われてきたが、今は議会からも職員を増やすべきではないかという意見もいただいている。市民の方にもそういう理解が得られれば、改善に向けて進めていきたいが、今後も行政が小さくなっていく中で、先を見据えていかなければならない。そういったところも踏まえながら改善に向けて進めていきたい。

(3) 通学路の安全確保について

(教育委員会総務課長より説明)

○教育委員

市長、教育長、教育委員と語る会では、よく通学路の安全確保や鳥獣の問題が議論される。また、学校訪問などで校長に困り事などを聞くと、やはり通学路等のことを言われることが多い。

予算の関係もあることは理解しているが、出来るかぎり早急に対応していただきたい。

○市長

道路については、優先順位を考えて対応している。また、水道管等の他の工事をするときに合わせてアスファルト舗装やグリーンベルトを設置するなどの対応をしている。

しかし、対応するまでの間は、学校や保護者の方から子供たちに何故危ないかをきちんと伝えていただくようお願いしたい。そのことが地震等の発災時にも活かされるのではないかと思う。

○教育長

やきめし坂について、以前から自転車通学としているが、最近そこでけがをする子どもたちが増えてきている。現在、通学で利用できる「かもめバス」のダイヤについて検討・協議しているところである。また、加茂地区についても道幅が狭いところがあるので対策を考えていきたい。

(4) 学校施設（廃校）の活用方針について

(教育委員会総務課長より説明)

○教育委員

廃校後の利用については、地域と教育委員会だけではうまく進みにくいところもある。市全体として活用方針があれば、様々な方法も考えられるのではないか。

○市長

廃校後の活用を教育委員会だけで考えていくことは限界があると思う。

○教委総務課長

用途廃止すれば普通財産となるが、施設の所管課が管理するという流れもある中で、全庁的に検討していくことになる。

○市長

学校だけでなく保育所や公民館もある。私も機会があるごとに全国のいろんなところを見に行っているが、成功事例は少ない。小浜小学校や国崎小学校は好事例である。

○教育委員

校舎の一部を使った好事例はよくあるが、校舎全体の利用はなかなか難しい。地域での協議も一向に進まず、良い案が出たとしても続けていけるのかということもある。

廃校舎の活用について、市全体で考えられる土壌があれば、まちづくり等にも活かせるのではないかと思うので、また検討していただければと思う。

○市長

以前、岩手県紫波町のオガールという所を見学した。世界公認のバレーボールコートがあり、その周りにゲストハウスのようなシングルルームがたくさんある。現在、鳥羽市でネックとなっているのはシングルルームが無いことであり、大会や会議を誘致しても宿泊は伊勢市になってしまう。

スポーツの大会参加者はシンプルでいいと考えている方も多いので、廃校舎をシンプルに改修し、低価格で利用できるようにしても良いのではないかと思う。

3. その他

○教育委員

「新入生等応援金」であるが、とても評判が良い。昨年、この場で話題となり、すぐに予算化していただきありがたい。

○市長

子育てする町として選んでいただけると、予算に限りはあるが、この事業は何とか続けていきたいと考えている。